

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)イオン新潟市秋葉区南町物件 新築工事 新潟県新潟市秋葉区南町72番3の一部、72番8の一部 第一種住居地域、近隣商業地域、防火指定なし 物販店, 2020年4月 竣工 11,657.21 m ² 2,870.70 m ² 2,836.64 m ² 地上1F S造 実施設計段階評価 2019年9月30日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{48.2}{44.6} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.7		バリアフリー計画	4.0
			維持管理	4.5
			設備の更新性	2.6
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.0		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.0		節水	1.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全と創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.5		まちなみ・景観への配慮	2.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

多くの人が集まる店舗であるので、バリアフリー法の認定を受け、安心、安全な建物とします。建物は屋根の二重折板断熱工法、外壁の断熱材充填等により断熱性能に配慮し、熱負荷抑制を図ります。非構造材料におけるリサイクル材の使用をできるだけ行い、資源循環の取組みに配慮します。敷地周辺に緑地を配し、周囲の住環境への配慮と敷地内温熱環境の向上を図ります。新規店舗の出店ということから、現地環境の荒廃感があつたところを街としての繁栄感を取り戻す形になります。

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)イオン新潟市秋葉区南町物件 新築工事	階数	地上1F
建設地	新潟県新潟市秋葉区南町72番3の一部、72番8の一部	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、近隣商業地域、防火指定なし	平均居住人員	93 人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,500 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 竣工	評価の実施日	2019年9月30日
敷地面積	11,657 m ²	作成者	近藤季也
建築面積	2,871 m ²	確認日	2019年9月30日
延床面積	2,837 m ²	確認者	袖山真武



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
以前に商業施設のあった空き地スペースに店舗(イオン)を新築する計画です。商業施設の共同の駐車場を中心に、その一角に配置するもので、周囲の住宅地から離れる方向の奥側に位置させ、建設範囲の周辺に緑地を配しました。現在は広い更地スペースになっており、そこに建設することにより、既存環境への配慮をしつつ、地域の繁栄にもつながるような施設になります。		旧店舗が閉店して解体され、更地のままであった所に新たな店舗が建てられることになるので、その存在自体により、周辺環境の荒廃感があつたところを街としての繁栄感を取り戻す形になります。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
店舗としての機能性を確保し、衛生面、安全面の充実を図る計画としています。照明器具には高効率LEDを採用し、照度分布に配慮した計画とします。	多くの人が集まる店舗であるので、バリアフリー法の認定を受け、安心、安全な建物とし、また、使いやすさを考慮した空間を確保しています。耐久性を考慮し、高耐久の材料を設定しました。	現状の環境を損なうことが無いように配置計画をし、室外機関係を周囲の住宅系建物から離れた位置に設定しています。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高コストな仕様材料は採用していませんが、外皮性能をできる範囲で配慮し、断熱性を確保しました。	非構造材料におけるリサイクル材の使用をできるだけ行い、資源循環の取組みに配慮します。	敷地周囲はJRの工場、社宅等に囲まれており、建物配置を住宅系から離れた南側に配置させています。北側の県道と西側の市道に接道しますが、建物位置は奥まっており、道路沿いの街並みに与える影響は少ないです。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される